



Let's 学生広報サポーター

1月23日(木)より松江キャンパスの生協ショップにて販売を開始した「島大生×姫ラボ石鹸」。
その外箱デザインの考案と、販売ブースのセッティングに取り組んだ地域人材育成コース生の4人と、
姫ラボ石鹸を展開する玉造温泉まちデコの方々にお話を伺いました。



(取材・学生広報サポーター R.I. / 撮影・企画広報課)

【学生取材】島大生 × 姫ラボのコラボ！新たな島大グッズ誕生



今回作成した姫ラボ石鹸の外箱デザインのイラスト原案を作成した山田悠人さんと、活動初日に姫ラボの店舗で一緒に石鹸の泡を手にした三木和歌さん。「姫ラボ石鹸の泡のボリュームが印象的だったので、この純粋な感動を元にデザインしました」と思いを語ってくれました。また、販売ブースには赤色と青色の「のれん」を設置。「この石鹸は、玉造温泉の水を使ったコスメなので、温泉要素を交えつつ、白を基調とした外箱デザインが目立つよう工夫しました」と話してくれました。

実は、コース生たちは、外箱デザインを作成するために、プロのデザイナーから直接、デザインの基礎についての講義を受講。外箱デザインのコンセプトの設定やデザインへの落とし込み方については、繰り返し指導いただいたそうです。山田さんは「デザイン作成での試行錯誤の体験から思いをデザインに表現する大変さを知ることができました」と答えました。

また、遠藤紗良さんは、「自分たちでパッケージを考え、実際に販売するマーケティングの流れを大学で経験できたことは貴重な機会でした。今回の外箱デザインに込めたコンセプトを楽しんでもらえたら嬉しいですね」と話し、藤田綾乃さんは「商品としての質が高く、島大生にも使ってもらいたいです」と力強く語ってくれました。

コラボレーションをされた玉造温泉まちデコの荒銀祐紀さんと正木那央さんにもお話を伺いました。今回の島大オリジナルグッズの作成にあたって、「パッケージを変えようという初めての試みに対して、最初は不安な気持ちもありましたが、学生さんからアイデアをもらうにつれて、新鮮な刺激を受けながら楽しく作成できました」と話してくれました。

最後に、コース生と玉造温泉まちデコの方から買われる方に向けて、「島大生は県外出身の方も多く、玉造温泉をはじめとする玉湯地域の魅力を知る機会が少ないと思います。この石鹸を通して、地域の持つ良さに気づききっかけになると嬉しいです」と期待を寄せていました。



今回の「島大生×姫ラボ石鹸」は松江・出雲の両キャンパスの生協ショップにて税込1,496円で販売中です。「地域の魅力を知るきっかけにしたい」という願いから、生協限定の特別価格になっています。また、外箱デザインには、メッセージを添えることも可能です。ぜひ、卒業の記念やご家族へのお土産として買われてみてはいかがでしょうか。



SUPPORTERS VOICE

新たな価値を一緒につくる、島根大学の共創パートナー

株式会社
出雲村田製作所

代表取締役社長 谷口育男さん



ネーミングライツ制度を通じた大学貢献

島根大学は、教育研究環境の充実、産学官連携の促進、そして地域社会への貢献を目的に、令和6年度から大学施設等へのネーミングライツ(命名権)制度を導入しました。この制度に最初に賛同したのが、セラミックコンデンサの生産で世界最大級の規模を誇る株式会社出雲村田製作所(本社：島根県出雲市)です。

同社は昨年12月、島根大学と第1号となるパートナー契約を締結しました。これにより、松江キャンパス附属図書館1階のラーニングcommons(交流型学習スペース)は「muRata Learning Commons(ムラタ・ラーニングcommons)」と命名されました。代表取締役の谷口育男さんは、「単に名前を付けるだけではなく、創業者の精神に基づき、地域社会の発展につながる事業として取り組めると感じました」と、その経緯を語っています。

また、谷口さんは「この制度を通じて企業の認知度向上を図るとともに、製造業の仕事を知ってもらい、将来のキャリア選択肢の一つとして意識してもらおうきっかけとなれば」と語り、製造業の発展・継続への期待を寄せています。

ムラタ・ラーニングcommonsの開設に際

しては、島根大学の卒業生を含む若手社員が中心となり、アイデアを出し合いました。その結果、「コンデンサ砂時計」という、同社が手掛ける技術を分かりやすく伝えるコンテンツが設置されました。さらに、「出雲村田日常すごろく」や、現在勤務している卒業生のコメントの紹介もあり、学生たちが製造業に関心を持つきっかけとなるよう工夫された場となっています。



従来より、個人学習やグループ学習のスペースとして学生たちに親しまれてきたラーニングcommons。今回のネーミングライツ制度の導入により、新たなコンテンツが加わることで、国内外から集まる学生たちがより広くコミュニケーションやディスカッションを行い、多様な価値観や発想力を育む場としての役割が期待されています。

産学官連携はオープンイノベーション推進本部へ！

＼ 気軽にご相談ください！ ＼

連絡先 オープンイノベーション推進本部
<https://www.openinnov.shimane-u.ac.jp/>

オープンイノベーション推進本部は、産学官連携の推進を図り学内外のネットワークを強化し、産学官連携の共同研究を通じてその研究成果を社会に還元し、地域産業の振興やイノベーションを創出する皆様の真の共創パートナーを目指します。



オープンイノベーション推進本部長 亀井 淳志